

こうばるの男たちは、よく学び、よく働き、そしてよく闘う。

家族のため、先祖のため、子孫のために、命を懸けてふるさとを守り続ける。

その一途さが時として諍いを生むときもある。その空気を変えるのは女たち。

こうばるの女たちは、よく食べ、よく笑い、よくしゃべり、そしてよく働く。

家事をこなし、子を育て、孫を慈しみ、そして、夫と共に闘ってきた。

座り込みの現場は、いつも彼女たちの笑い声に溢れ、張り詰めた空気も和んでいく。

毎日午前中は座り込み、午後は田畑の手入れや買い物。夜は炊事やお風呂で一日が終わる。

その繰り返し。なのに、なぜ彼女たちはそんなに元気でいられるのだろう？

「美味しい空気に、美味しい水。鳥の声で目覚める幸せ。自然がいっぱいだから」

と返ってきた。それだけ？

「そうね～それぞれみんな『好きなこと』を持っているからかな？

スポーツ、コーラス、日舞、花作り・・・わずかな時間でも楽しめる自分の世界があるの。

私たちの趣味はこれ・・・」とあって、見せてくれたのが、パッチワークの作品だった。

小物から、バッグや洋服、大きなタペストリーまで。広げると圧巻だった。

忙しい彼女たちが、これだけの作品を仕上げるのに、どれほどの月日が費やされただろう。

それはまるで、こうばるに嫁いだ3人の義姉妹の歴史のようだった。

「作品を見ると、作っていた頃の記憶が蘇る。何でもない家族の会話や出来事など」

「他所の生まれだけれど、私たちのふるさとはここ」

「いま一緒に暮らしている子や孫たちに残したいふるさとはここ」

こうばるで、これからも、人生の時を重ねたい。

パッチワークの一針、一針のように。丁寧に、心を込めて。